

め
愛でる

-暮らしの中の
ぶどうとワイン-

2024.9.28sat-

11.28thu

甲州市立勝沼図書館

ぶどうとワインの資料展
2024



ごあいさつ

甲州市立勝沼図書館では、地域に根ざした図書館を目指して、ぶどう・ワインに関する資料の収集、保存、提供に努めています。また、より多くの方々にぶどうとワインに親しんでいただき、地域の活性化につなげることを目的に毎年度テーマを設け「ぶどうとワインの資料展」を開催しています。

ぶどうとワインの歴史は古く、最古のぶどう栽培及びワインづくりは、昨今ジョージアで発掘された遺跡の土器の破片に残っていた酒石酸やブドウの種子の化石等から、紀元前6000年頃まで遡ることが科学的に証明され、8000年に及ぶ長いワイン造りの歴史があることが明らかになりました。

人類とぶどうとワインの係わりはとても長く、深いものです。

ぶどうとワインを愛でる。

「愛でる」とは、暮らしの中から生まれる行為です。対象となるものの係わりが深ければ深いほど思いも深くなります。

世界の宗教や芸術、調度品にもぶどうは、多産や吉祥のモチーフとして、人々に好んで愛用されています。

ぶどうとワインは、食するだけでなく、積み重ねられた歴史の中で、暮らしの中の大切なものの象徴として表現されてきました。

令和6年度（2024）ぶどうとワインの資料展では、
「^め愛でる　—暮らしの中のぶどうとワイン—」

をテーマに、

私たちの生活の中にある良きものとして表現されているぶどうとワインを探してご紹介し、より多くの方々にまだまだあるぶどうとワインの魅力を楽しんでいただけたら幸いです。

甲州市立勝沼図書館



ぶどうとワインの資料展
2024

GRAPES AND WINE EXHIBITION 2024

愛でる

—暮らしの中のぶどうとワイン—

2024.9.28 SAT -
11.28 THU

守る 伝える 慈しむ
「愛でる」とは
永遠を願う 人の心

甲州市立勝沼図書館



<https://www.lib-koshu.jp/>

目次



ぶどうとワインの歴史は…



ご紹介

ぶどう と ワイン で 愛でる…



ぶどうとワインをモチーフに、作品を制作されている方に、

- ・ぶどう、ワインのモチーフの作品を作ったきっかけ
- ・ぶどうとワインに感じている魅力
- ・作品に込めている思いを伺い、作品をご紹介します。

ぶどうとワインで愛でる…

『アッキーラ・スズキの
消しゴムな世界 』



鈴木 明さん

ぶどうとワインで愛でる…

『若尾家を継ぐ、飄々とした婿として
しなやかに自由に…』



若尾 亮さん

甲州市・勝沼 で 見つけた ぶどうとワイン

ぶどうとワイン 色で 愛でる…

えびいろ
葡萄色

『源氏物語』の葡萄色

ぶどうとワイン 形で 愛でる…

ぶどうもん
葡萄紋

ぶどうからくさ
葡萄唐草

ぶどうす
葡萄図





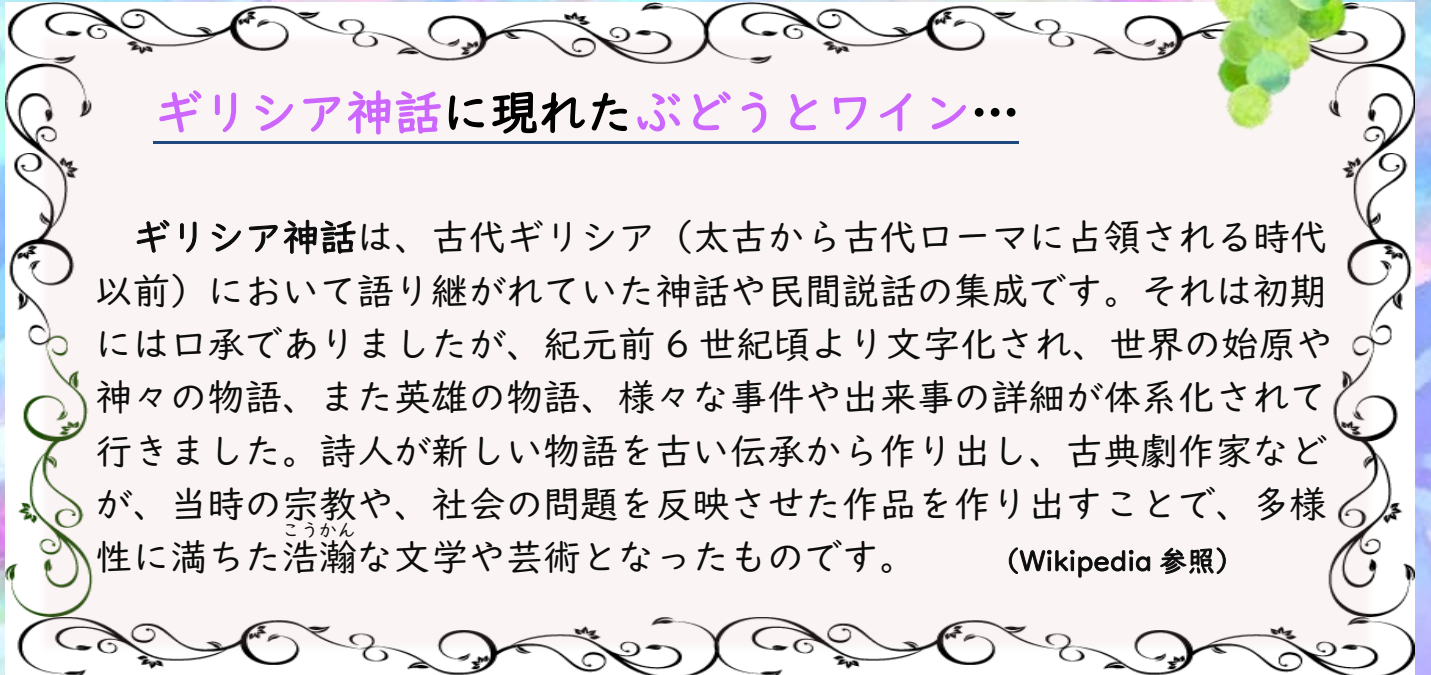
ぶどうとワインの歴史は…

ぶどうは、原産地の中近東から、古代ヨーロッパや中国に伝わったとされます。世界的観点からはブドウは生食する果物というより、葡萄酒の原料でありました。ブドウの栽培化の歴史は古く、紀元前 3000 年頃には原産地であるコーカサス地方やカスピ海沿岸ですでにヨーロッパブドウの栽培が開始されていました。

ワインの醸造は早くに始まり、メソポタミア文明や古代エジプトにおいてもワインは珍重されていました。メソポタミアでは気候や土壌的にブドウの栽培が困難なため、消費されていたワインの多くは輸入されていました。

ギリシア神話には、ディオニューソス（バックス）がエーゲ海諸島にブドウの植え方、醸造方法を広めた伝説があり、有史以前からワイン醸造のためのブドウ栽培が大々的に行われていました。また、ギリシア人が植民した地域でもブドウ園が各地に開設されるようになりました。ギリシアを支配したローマ帝国の時代にはワインは帝国中に広まり、そのためのブドウ栽培も帝国各地で行われるようになりました。ローマ人は特にガリアやラインラントにブドウを導入し、現在でもこの地域はブドウの主要生産地域となっています。ローマ帝国崩壊後の政治の混乱によってブドウ栽培は衰退していきましたが、各地の修道院などによって少量ながら生産が維持され続け、やがて政情が安定するとともに再び栽培が盛んとなっていきました。——

(Wikipedia 参照)



ギリシア神話に現れたぶどうとワイン…

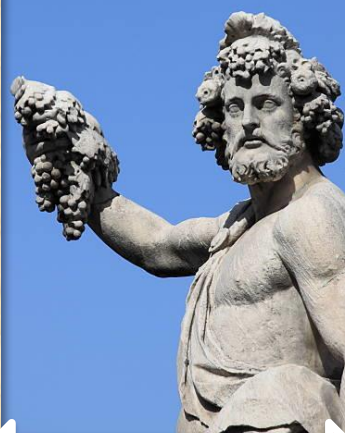
ギリシア神話は、古代ギリシア（太古から古代ローマに占領される時代以前）において語り継がれていた神話や民間説話の集成です。それは初期には口承でありましたが、紀元前 6 世紀頃より文字化され、世界の始原や神々の物語、また英雄の物語、様々な事件や出来事の詳細が体系化されて行きました。詩人が新しい物語を古い伝承から作り出し、古典劇作家などが、当時の宗教や、社会の問題を反映させた作品を作り出すことで、多様性に満ちた浩瀚な文学や芸術となったものです。 (Wikipedia 参照)

酒の神 ディオニューソス

ディオニューソス（デュオニュソス）は、ギリシア神話に登場する**豊穡とブドウ酒と酩酊の神**で**演劇の神**でもあります。**バックス**（英語で**バカス**）とも呼ばれ、ゼウスとテーバイの王女セメレーの子です。オリュンポス十二神の一柱に数えられることもあります

古代ローマ

（紀元前753年～476年）はイタリア半島中部に位置した多部族からなる国家の総称です。都市国家から始まり、領土を拡大して地中海世界の全域を支配する世界帝国となりました。（Wikipedia 参照）



ローマ神話では、
（古代ローマで
伝えられた神話）
ワインの神

バックス

ディオニューソスは「豊穡と酒と狂乱の神」と言われ、ブドウ栽培とワイン造りの方法を考え出し、それを各国に広めたとされています。バックスの姿は数々の絵画が描かれており、有名なものはイタリアのフィレンツェ・ウフィツィ美術館のカラヴァッジョ作のものがああります。海外産のワインラベルにバックスの絵が描かれているものもあります。

ワインの始まり…

ワインの始まりはどこにあるのでしょうか

世界で最も古いワイナリー

—— ワインの起源は、人類が記録に残しているよりも遥かに古いとみられています。 — ワインが文献上に初めて登場したのは、紀元前5000年頃（日本では縄文時代前期）、世界最古の文学作品と呼ばれるメソポタミアの『**ギルガメシュ叙事詩**』においてです。古代メソポタミアの女王クババは、ブドウ酒の婦人という敬称が与えられています。しかし遺跡などの発掘によって、すでに紀元前7000年代には中国で、紀元前6000年代年にはジョージアで、紀元前5000年頃にはレバノンでワインがつくられていたと考えられています。

確実な証拠がある人為的なワイン製造は、紀元前4100年のアルメニアにおいてです。アルメニア南部アレニの町の近くのアレニ洞窟が、世界で最も古いワイナリーとされます。 ——

『ワインの教科書』宮城大学教授 金内誠/著 より 【W040 カ】



アレクサンドロス大王の遠征によって広がった

ぶどうとワイン



アレクサンドロス 3 世

(紀元前 356 年 7 月 20 日 - 紀元前 323 年 6 月 10 日)

通称・アレクサンドロス大王は、古代ギリシャのアルゲアス朝マケドニア王国のバシレウス(王)(在位：紀元前 336 年 - 紀元前 323 年)であり、またコリントス同盟(ヘラス同盟)の盟主や、エジプトのファラオも兼ねました。

ヘーラクレースとアキレウスを祖に持つとされ、ギリシアにおける最高の家系的栄誉と共に生まれました。

ギリシア語ではアレクサンドロス大王ですが、ドイツ語風に読んでアレクサンダー大王またはアレキサンダー大王とすることも多いです。

紀元前 356 年にアルゲアス朝マケドニア王国ペラで生まれ、20 歳で父であるピリッポス 2 世の王位を継承しました。その治世の多くをアジアや北アフリカにおける類を見ない戦役(東方遠征)に費やし、30 歳までにギリシャからインド北西にまたがる大帝国を建設しました。また戦術・戦略の天才であり、少年のごとき純朴な野心を持っていて戦えば決して負けることがなく、確かな戦略で領域を急速に拡大し、異民族統治においては独創的な方針をとりました。

彼の業績は征服戦争に成功したことだけにあるものではありません。当時のギリシア人が考える世界の主要部(ギリシア、メソポタミア、エジプト、ペルシア、インド)のほとんどを一つにつないだ若き『世界征服者』であり、異文化の交流と融合を図る諸政策を実行し、広大な領域にドラクマを流通させることで両替の手間を省いて迅速かつ活発な商取引を実現したことにあります。アレクサンドロス以後、世界は一変しました。また、歴史上において最も成功した軍事指揮官であると広く考えられています。ぶどうとワインは、このアレクサンドロス大王の遠征とともに故郷のワインを思う人々によっても広がっていきました。

彼は哲学者のアリストテレスを最高の師として尊敬していたのですが、アリストテレスは植物学者として古代ギリシャにおけるブドウ栽培の研究もしていたのです。『植物誌』の論文では、アリストテレスの愛弟子たちがブドウ栽培についてまとめた記述を発表し、ワイン学者の大プリニウスもアリストテレスの影響を受けたと言われています。もちろんアレクサンドロス大王もその一人。当時の記録で(現在の)会議の食事でワインを飲み、その後も仕事をしながら朝までワインを飲んでいたことがあったようです。

(Wikipedia 参照)





聖書の中のぶどうとワイン

ワインはギリシア神話やローマ神話、キリスト教において重要な役割を果たす神聖な存在でもあります。ローマ帝国時代、コンスタンティヌスⅠ世がキリスト教を国教に定めました。

ワインは、キリストが『主の晩餐』と呼ばれる晩餐にワインを使ったことから、キリスト教の晩餐式において主要な役割をはたしています。

ローマ帝国のヨーロッパへの拡大に伴い、ワインも伴に広がっていききました。

(Wikipedia 参照)

また、『聖書植物園図鑑』（西南学院大学聖書植物園/丸善プラネット）の【ブドウ/ぶどう】の項では、

『聖書では、ブドウは人類最初の栽培植物となっている。神とともに歩み、正しい人として大洪水を生き延びたノアは、洪水の後、ブドウ園を作り、ブドウ酒を作った。しかし、そのブドウ酒に酔いしれて醜態をさらしてしまう。聖書では、ブドウの木とイチジクの木の下に住むことは、幸福、平和、豊かさの象徴とされた。ブドウは聖書の地の七産物の一つである。』（「80 ブドウ/ぶどう」より抜粋）と記述がある。



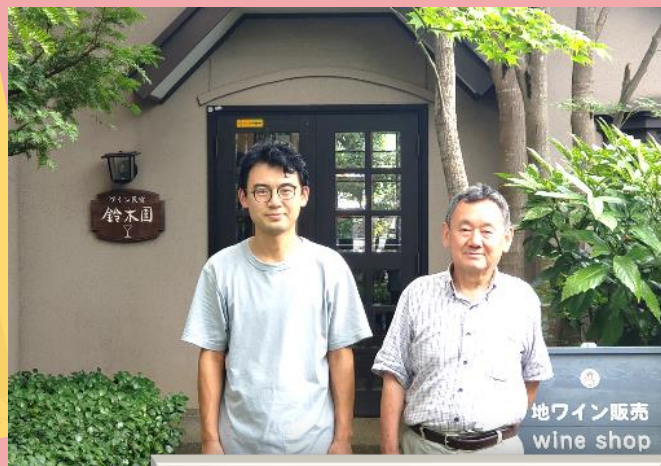
ぶどうは古くから人々の身近な植物であり、ぶどうから作られるブドウ酒・ワインは特別、というよりやはり身近な飲料だったことが考えられる。

世界の英傑・歴史に名を遺す英雄たちも、ワインを嗜む記述が多く残されている。



ご紹介

ぶどうとワインで愛でる… 『アッキーラ・スズキの 消しゴムな世界』



鈴木明さん

ワイン民宿鈴木園の元主人、鈴木明さん。（右）
現在は、息子さんの佑介さんが営まれています。

ぶどう・ワインを使ったモチーフの作品を作ったきっかけをお伺いします。



元々「豆本」などをハンコと一緒に作っていたのですが、これを（ハンコ）を使ってもっと手軽なお土産を作りたいと思って。

パンフレットなどは持ち帰っても捨てられてしまうことが多く、有料で何かと考え、ハガキを作って、それを購入していただき勝沼の記念にしてもらいたいという思いがありました。

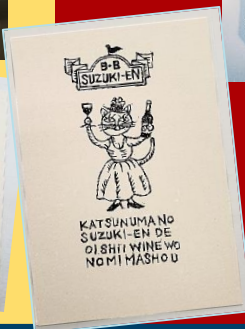
民宿の経営を息子（夫婦）たちに任せて、時間に余裕ができたこともあり、本格的に作り始めました。

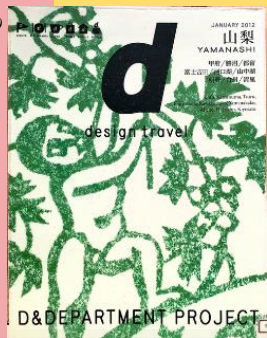


絵葉書の絵柄は 20 以上！
魅力的な缶バッチも専用棚に並ぶ。



細かいディテールがわかる消しゴムハンコの原版。





『d design travel』 W212・テ

「葡萄を摘む天使」 手掘りの版画作品が、

『d design travel2012/7/YAMANASHI』の表紙になりました。

——《ワイン民宿》という発想で、山梨の魅力を伝える「鈴木園」。そのオーナーである鈴木明さんの手掘りの版画作品に、自発的で素朴、真面目でユーモア、そして、「山梨のデザイン性を感じ、表紙に使わせていただきました。「わかる人にだけ来てほしい」と言い、看板は気づかないほど小さくて、「自分が自分が」と主張をせず、ただひたすらに正しいと信じる物事に突き進む山梨の人々。荒々しくも、未開拓なフィールドを開拓し、品を持って表現に落とし込む、その様子に「通いたくなる発見」を頂きました。——

『d design travel2012』より



ぶどうとワインに感じる魅力は何ですか？

ワインが大好きでして… 根底は、郷土愛ですね。学生時代東京に出ていまして、勝沼に戻りました。外に出ないと、勝沼の良さがわからないと思いました。勝沼の自然、葡萄畑とその風景、生み出されているものは、素晴らしいと思います。私は、日本の文化の深さに誇りを持っています。日本文化の根底には、自然物を愛でる気持ちが続いていると思います。風流、風情を感じる心が大切だと思っています。



芸術系の学校に通っていましたが、日本文化のそういう自然の形を表現している物が大好きで誇りを持っています。

自分の庭を作ることで、自然の中に作られる美しさを意識しています。こういう時代に、勝沼でこの盆地の景色に誇りを持って暮らして行きたいと思っています。失われて行くものもあるかもしれませんが、自分が関わっている良きものも残したいと「古民家クラブ」という活動もしています。

作品に込めている思いなどをお願いします。



誰かをおもしろがらせよう、驚かせようという気持ちから作っています。

それぞれの作品の中に、知識を隠し入れて、みんなが驚いたり、感心してくれたりしてくれることが楽しいです！



基本「ワイン」かな、いや「勝沼」かな。

作品のどこかに入っていて、見た人が「勝沼いいところだな」「勝沼」って思い出してくれると嬉しい。

他に、ぶどうとワインに関する資料収集などについてありましたらお願いします。



ダンザール公
「この皿では中乗っばらって
いないが要になります」

ワインギャラリーを設けています。
今来ているお客様を喜ばせるため、喜んでいただくために、ギャラリーを開いています。
購入希望の方には、お譲りしています。



金唐草薬箱



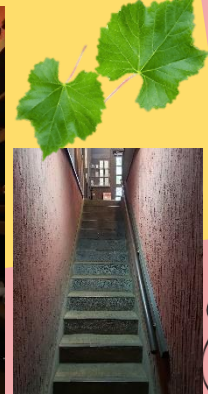
薄くなってしまっているが、「大日本葡萄酒会社」の刻印が入っている足つきグラスは貴重！



髭徳利



世界中の様々な、ワイン用品が並ぶ



これからについて考えていることなどありましたらお願いします。



オブジェやハンコの作品などを作り、色々な方々から今まで受け取ったものを、お返しする、お返ししていく。
心で感じたこと、その気持ちを返していく。
それが巡回して未来へつながっていったいと思っています。



今回展示させていただくためにお借りした作品。
勝沼からフランスへ渡り、本格ワインを学んだ、高野さんと土屋さんがワインを飲んでいる姿。
さらに4枚の絵の中には共通のモチーフが！
ぜひ探していただきたい！



絵も描く。ご自身では「下手だから」とおっしゃるが、とんでもない！ 見事な上にセンス抜群！
そしてユニークで小粋な仕掛けが必ず入っていることに感動してしまう。

種明かしに「あー！ホントだ！」と驚くと、子どものように笑って喜ぶ。ダンボール工房の人形たちは皆、生き生きとワインやぶどうを運び、レトロなワインギャラリーはお洒落。さらに！勝沼図書館のハンコまで作っていただいていた！

まさに「勝沼」を『愛でる』鈴木園である。



ご紹介

ぶどうとワインで愛でる…
「若尾家を継ぐ
飄々とした婿」として
しなやかに自由に…



若尾亮さん

結婚を機に若尾家に入り、16年。
マルサンワインの醸造家 事業主として、若尾
果樹園の一員として家族で日々励んでいます。

ぶどう・ワインを使ったモチーフの作品を
作ったきっかけをお伺いします。

ステッカー

会社のグッズを作ろうと考えて作りました。グッズというと、ワイン業界でスタンダードな物は、コルク抜き・グラスやトートバッグなどですが、そういった物ではないものを作りたいと思っていました。以前から趣味でインディーズのロックバンドに入っていました、バンドのグッズには、ステッカーや缶バッジがあります。それでうちの『家紋』を入れたステッカーを、まず作りました。

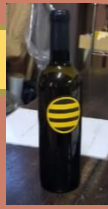
そして、缶バッジ、続いて、折り畳みのマッチ、この小型マッチは、第2号です。デザインは、友だちのイラストレーターにお願いしました。僕の気持ちを理解してくれている、しんどいことも自分の考えていることや、実行したいことなどよくわかってくれている理解して共感してくれるそういう友だちです。家紋は黄色が良いと思っていました。マッチのぶどうの葉のデザインを気に入っています。

缶バッジは、若尾家の家紋です。

缶バッジ

ミニマッチ

家紋について



初めて自分がつくる新商品に思い入れがありました。



実は、初めて自分がつくる甲州ワインのボトルのラベルは、若尾家の家紋にしようと考えていました。これまで発売しているワインではなく新商品として出すときに使おうと思っていました。家紋のインパクトが強いので、商業戦略というものを超えてそれを使いたいと思っていました。

今は、全てのワインを手掛けています。1年目は、県立ワインセンターで経験を積みました。

ぶどうとワインに感じる魅力は何ですか？



1年というサイクルがあることです。

クラフトビールなどは1年、日本酒や焼酎など穀物類は、季節に関係なく醸造することができます。穀物は保存しておくことができるので、始めるときは人間が決めることができます。日本酒は、仕込みの時期が決まっていますが…。やはり、ワインとは、違います。

ぶどう栽培には、ずっと続いている中に、四季をひと回りするという1年のサイクルがあります。1年の四季の経過とともに感じる充実感や達成感があります。それが魅力です。1日働いて、みんなしんどいのは一緒だと思うのですが、日々の中で感じる、昼ご飯が美味しいなとか、風景がきれいだな、風が気持ちいい、ワインづくりやぶどうづくりは、自然と共にその流れの中で暮らして働いていけることが本当に魅力です。

「ぶどうの作業の進みを確認し合ったり、勝沼だけにとどまらず、農家同志、仲間同士、ワイン造りに関わっている人もみんな仲が良いです。みんな同じ苦労をお互いに知っているからだとも思います。そして、何かの機会に情報を交換しあったり、ねぎらいあったりしています。

お互い尊重しあっていると思います。僕の造ったワインを、他の醸造家の誰かが、僕のいないところで「おいしいから飲んでごらん」と紹介してくれたり、なかなかできないことだと思うのですが、自分もそういった紹介もします。

みんなで認め合っていることが嬉しいです。



作品に込めている思いなどをお願いします。



献上梨の木

グッズを作って、若尾家のストーリーを表現していきたいと思っています。それを、ぶどう園のお客さんや、ワインを楽しんでくれる人たちとも共有したいと思います。そして、若尾家としての自分を楽しみたいとも思っています。

若尾家は、江戸時代甲州街道の、脇本陣^{わきほんじん}でした。(※1)
江戸時代の甲州八珍果^{こうしゅうはっちゃんか}の献上梨の木があるという、この梨の木は、鈴木園さんと2軒だけという献上梨の木です。明治時代からは、郵便取扱所を、行っていたという旧家です。
自分が、若尾家に入ることになった時、実母から、「よく、働くように。」それだけを言われました。伝統のある家に入るというプレッシャーを超えるため、守り続けています。



※1 脇本陣とは江戸時代の宿場町に設置された。「本陣」の予備的施設。「本陣」だけでは泊まりきれない大人数やほかの藩と鉢合わせを避ける場合などに使用。

パンフレットを作りました。

第52回山梨広告賞

雑誌フリーペーパー部門優秀賞受賞

『若尾果樹園／マルサン葡萄酒
パンフレット』



開いて



開いて



パンフレットではない読み物のようなイメージで作りました。

ーぶどうを育てて300余年。勝沼に根ざすファミリーワイナリー。

やはり、家族を象徴しています。仕事と生活が一体化しているので、家族がひとつになっている。生活の中に全部が入っているのでもめている場合ではなく一体感があります。若尾家を伝えたい、味わってもらいたい。それが思いです。それをわかってきて、表現してくれたのが、甲府に事務所を持つWeb制作会社ビジュアルアンドエコージャパンさんです。

他にぶどうやワインに関しての思いなどをお願いします。

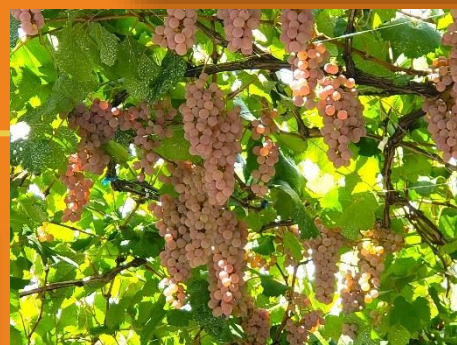
子どもの授業参観に行って、息子の将来の夢が「ぶどうづくり、だということ」を粘土作品を見て初めて知りました。私は選んで、自由にこの仕事に生きているのですが、子どもたちは、ぶどうづくりもワインづくりも、家族が楽しく働いて過ごしている姿を見ていて、大変そうだけれど、家族が作った物を他の人が「おいしい」と言ってくれる言葉を聞いて心に響いているのだと思いました。

自分には、飲めないワインがあります。

1本は、錦城葡萄酒の高野さんの葬儀の引き物のワイン、自分がこの世界に入った時に本当に親身になって教えて下さいました。あれは絶対に開けられない、無理だと思う。そして、昨年亡くなられた、池田ワイナリーの池田さんの最後のヴィンテージです。池田さんは、自分が子どものときに剣道を習っていらして、僕の先生でもありました。

思うことは、全てには、愛があるということだと。

原動力は、愛する心です。



今年のテーマが決まった時、実は一番に浮かんだのは若尾さんだった。2月のイベント時に「キャラメルマッチ」(図書館での呼び名)をいただき、家族総出のパンフレットを見て、なんて面白くて、可愛くて、良いものを作るのだろう！ぜひ、今後のアイディアや展望、デザインに込めた想いを聞いてみたいと思っていた。仕事場にはバンド活動に必要な私物とレコード、壁にはたくさんの『大好き』が飾られている。その中には家族写真やお子さんの作品も。『大好き』に囲まれながら、楽しんで仕事をこなしていく、まさに『飄々とした』姿があった。一度外に出て戻ったからこそ見える故郷の美しさ。「古い部分もいいと思う、逆に新鮮。みんな新

しくなったらつまらない。」そう話す姿は、まさに「勝沼」を『愛でて』いた。



甲州市・勝沼で 見つけた 愛でるぶどうとワイン



ぶどう橋街灯



旧勝沼町 町章
シンボルマーク

勝沼町の特産である『ぶどう』をあしらったもの。ぶどうの房を中心に取り組む葉型は町民の和をあらわしたものだそう。シンボルマークは言わずと知れた「高野さん・土屋さん」2人の姿やシルエットを採用。



勝沼中学校生徒作品



R2(2020)年度
紫薫祭(学園祭)の
全校制作「つながり」
をテーマに作成され
た3作品のうちの1
作品。勝沼中学校の
生徒は葡萄のジベリ
ン体験学習を毎年
行っていました。



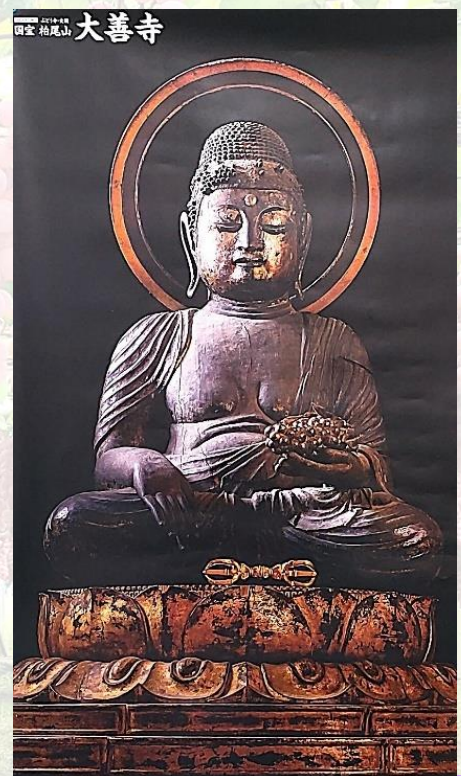
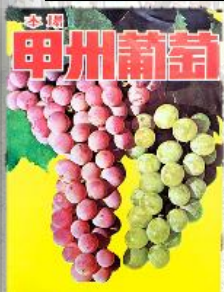
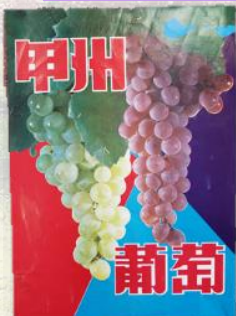
勝沼中学校 体育館外壁



ぶどう柄マンホール & 消火栓
そこから派生した、コースター

ぶどう掛け紙
オールドコレクション

ぶどうの掛け紙は時代に合わせて「勝沼ぶどう郷観光協会」で数多く作られ、それぞれの葡萄園が名前を入れて使用していた。
うーん、レトロ！



大善寺 ぶどうを
手に持った薬師如来





まるき葡萄酒
ワインボトル
オブジェ



フジクレールワイナリー
ワイン樽オブジェ



勝沼
甲州市ウィングラス



勝沼ぶどう郷駅前ガードレール



右端 旧勝沼町 初代グラスはおちょこタイプ。それでも人気が高いのです。
中央 旧勝沼町 二代目グラス。結婚式の引き出物にはこれ！だったそうです。
左端 現在の三代目 華やかです。

祝橋



ワインツーリズム勝沼
ウィングラスホルダー



甲州市勝沼ぶどうの丘×Plune.コラボ企画！！

ぶどうの丘では、甲州市塩山出身の『堀内映子』さんをお願いをし、ぶどうをモチーフにした新商品を開発いたしました！！
甲州市は山梨県を代表するフルーツ王国、そして勝沼町は日本一のぶどう産地！！

今回、シャツやポーチ、エコバッグなど多彩な種類を商品化(*^-へ^-*)可愛らしさが前面にあふれるデザインになっています。

2024.5.20 ぶどうの丘ホームページより



Plune.のキラメキ
果実シャツ



Plune.のキラメキ
果実手ぬぐい

などなど
あなたは見つけれられるかな？

甲州市 かつぬまぶどう祭り

2024 第71回
を迎えます！



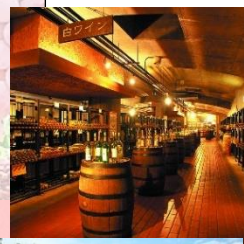
感染症蔓延防止で、近年縮小気味だったぶどう祭り。今年は徐々にですが、元のカタチへと戻っていきます。ワイングラスを持って歩く、優雅な雰囲気のお祭りですが、夜の鳥居焼は、中学生が松明を持って走る姿が印象的！きっと誰もが感動するお祭りです。

「かつぬま新酒ワインまつり」
毎年 11 月 3 日に開催されます。



毎年新酒が解禁となる、11月に開催。ぶどうの丘にて、華やかに行われられます。甲州市のワイナリーが集まるので、ワイン好きにはたまならいお祭りです。

行われられます。甲州市のワイナリーが集まるので、ワイン好きにはたまならいお祭りです。



世界でもワインまつりが行われています。

ポーヌ栄光の3日間

毎年 11 月の第 3 週末 に、ブルゴーニュ地方の中心都市ポーヌを中心に開催されています。最大のメインイベントは「オスピス・ド・ポーヌ」と呼ばれるチャリティーワインオークションで、世界中からワイン愛好家やワイン商が集まります。



デュルクハイマー・ヴルストマルクト

ドイツ 世界最大級
ワインとソーセージの祭り



ボルドーワインフェスティバル

メルボルン フード&ワインフィスティブアル

ボストン・ワイン&フードフェスティバル

アルゼンチン ぶどう収穫祭

勝沼図書館 で 愛でる！

勝沼図書館では 2018 年『Library of the year』を受賞した時に、全国に名前を憶えてもらいたい、「勝沼」という場所を知ってもらいたい、という思いから、勝沼図書館ロゴマークを作成。現在も館内で活躍しているスタッフが作成してくれました。勝沼図書館は、「ぶどうとワイン」の書籍・資料数が日本一ということもあり『ぶどうの葉』と『ワイン』をモチーフにしてもらいました。

右上の丸いタイプは、昨年度スタッフバッチを作成した際に、横長のロゴをバッチタイプに加工してくれたもの。どうですか？「勝沼」っぽいでしょ？



ぶどうとワイン 色で 愛でる…

『源氏物語』の^{え び いろ}葡萄色

^{え び いろ}葡萄色



——「^{ぶどう}葡萄」は今では「ブドウ」と読むのが一般的だが、「エビ」と読んで^{え び かずら}葡萄葛をさす。「エビカズラ」は、山葡萄の古名である。——
^{え び いろ}葡萄色は、王朝の人々に親しまれた色の一つで、清少納言も「めでたきもの」に思いをめぐらして「葡萄染の織物」をあげ、——『源氏物語』「^{はなのえん}花宴」の巻で、右大臣邸の藤の花の宴に招かれたおりの光源氏のいてたちは、「桜の唐の^{のうし}綺の御直衣、^{え び そめ}葡萄染の下襲、^{したがさね}裾い」と長く引きて、——人々にかしずかれながら入ってきた光源氏の姿は、花も圧倒されるほどに水際立っていた。——とあります。

『日本の色辞典』吉岡幸雄／著より 【757・ヨ】

また、『源氏物語』「玉鬘」（第22帖）には、光源氏が紫の上の為に選んだ色が、

——^{こうばい}紅梅のいと^{もん}紋浮きたる^{え び}葡萄染めの御小袷、^{こうちき}今様色のいと^{いまぞういろ}すぐれたるとはかの御料、——とあります。



『「源氏物語」五十四帖の色』 吉岡更紗／編著吉岡幸雄／原著【913.3・ケ】

では、

——^{むらさき}紫の^{うえ}上の衣装 ^{え び ぞめ}葡萄染（^{し こん}紫根×^{あかね}茜）・^{こうちき}小袷（^{し こん}紫根）・^{ほそなが}細長（^{すおう}蘇芳）——
^{え び ぞめ}葡萄染にやあらむ、色濃き小袷、^{うすすはう}薄蘇芳の^{ほそなが}細長に、^{ぐし}御髪のとまれるほど、こちたくゆるるかに、—— 紫の上は「葡萄染」だろうか、色濃き小袷を着ているとある。——と紹介されています。



『^{えんぎしき}延喜式』（※2）では、^{え び いろ}葡萄色を染めるには、主に紫草の根を原料として使っています。

※2 延喜式とは、平安時代初期にまとめられた禁中の儀式や規則などを記した50巻にものぼる法令集。三代格式の一つ。

延喜五年（九〇五）、左大臣藤原忠平らが醍醐天皇の命令により編集。延長五年（九二七）完成。古代政府の根本法令を補う形で、その後発布された施行細則を集大成したもの。「縫殿寮（ぬいどのつかさ）」の項目に、衣服や染色材料などについて詳細に記されている。

ぶどうとワイン 形で 愛でる…

ぶどうからくさ 葡萄唐草

パルミラの遺跡に見るベル神殿の
ぶどう唐草模様（シリア）



パル金製耳飾り
（シリア出土）



古代エジプト、
書記ナクトの墓壁画



薬師寺の葡萄唐草
薬師如来の台座



しょうそういんほうもつ こんるりのつき
正倉院宝物 紺瑠璃杯

うんこう だいじざいてん
雲岡石仏群のうち、大自在天（ぶどうを手にもつ）



葡萄紋

——房状の果実を実らせる
葡萄。奈良時代に中国を経由
してシルクロードの宝物が輸
入されると、装飾されていた
エキゾチックな葡萄の模様が
奈良、平安の貴族たちに好ま
れ流行し、家紋にも用いられ
るようになった。——

『イラスト図解家紋』

高澤等／監修より

【288・カ】

甲州市ぶどうの国文化館より

葡萄は繁殖力が旺盛で多くの実をつけることから、縁
起がよいとされ、子孫繁栄や長寿の象徴として東洋で
親しまれてきた画題で、^{ぶどうすいかす}「葡萄垂架図」（元時代）東京
国立博物館蔵などや、また、芸術品にも数多くみら
れます。江戸時代の画家、伊藤若冲は、^{いとうじゃくちゅう}葡萄をテー
マにした絵を、障壁画を含めて何点か描いています。
これまで、その存在自体が、全く知られていなかった
伊藤若冲・70歳代の彩色画卷『^{かそすかん}果疏図巻』が昨年
（2023）、ヨーロッパで発見され京都にある福田
美術館が所蔵し、公開する運びとなっています。

葡萄図



他にも紫地葡萄唐草文錦、
海獣葡萄鏡（正倉院）などがあります。



時を超え 時代を繋ぎ

人々に愛され 人々を支え

葡萄 ぶどう ブドウ

その姿に癒され 励まされ 笑顔になる

未来を願い 吉祥を信じ 自身の原動力になる

あなたの『愛でる』は 何ですか？



甲州市立勝沼図書館 ぶどうとワインの資料展 2024

『^め愛でる — 暮らしの中のぶどうとワイン — 』

編集・発行

甲州市立勝沼図書館

発行日

2024年 9月28日

協力

鈴木 明さん 甲州市

若尾 亮さん 甲州市



甲州市立勝沼図書館

〒409-1313 山梨県甲州市勝沼町下岩崎1034-1

TEL 0553-44-3746 (みなよむ)

FAX 0553-44-3811

